

指導者等養成研修事業

大阿蘇青少年ボランティア入門塾  
自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成講座①

- [主催] 国立阿蘇青少年の家
- [後援] 熊本県教育委員会 阿蘇郡市教育委員会
- [期日] 令和2年7月4日(土)～7月5日(日)【1泊2日】
- [活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家
- [参加者] 58名(高校生15名、大学生33名、社会人10名)
- [講師] 熊本大学教育学部教授 山城 千秋 氏(青少年教育における体験活動)  
日本文理大学人間力育成センター長 高見 大介 氏(ボランティア活動の意義)  
WakuWaku OFFICE あそBe隊代表 薄井 良文 氏(自然体験活動における安全管理)
- [担当職員] 有木園 和志(企画指導専門職) 尾中 純一(事業推進係長)  
尾家 義隆(企画指導専門職) 佐藤 倫子(企画指導専門職)

1 趣旨

- 青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- 専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献できる自然体験活動指導者(NEALリーダー)の養成を図る。

2 目標

- ボランティア養成研修を通して、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- 専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献できる自然体験活動指導者(NEALリーダー)の養成を図る。
- 施設職員や先輩との交流を通じて、青少年教育施設におけるボランティア活動や自然体験活動の魅力に触れ、法人ボランティアやNEALリーダーとしての登録を促す。

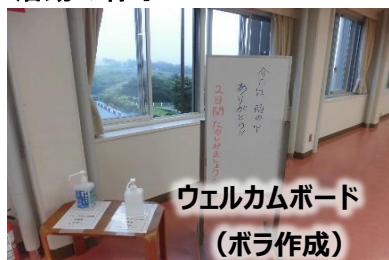
3 事業展開

研修プログラム

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
7月4日(土)				受付 開会式	講義① 青少年教育における体験活動	昼食	講義② 青少年教育施設の現状と運営		演習① 自然体験活動の技術 (野外調理・焼きそば)		移動・休憩・準備	講義③ ボランティア活動の意義	振り返り・入所OR	入浴	就寝準備	就寝

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
7月5日(日)	就寝	起床・準備	検温・朝食	クリーンタイム	感染防止タイム 退所点検	講義・演習② 自然体験活動における安全管理	昼食	講義④ 青少年教育活動におけるボランティア活動	ガイダンス	閉会式	解散					

## 活動の様子



## 4 成果と課題(○:成果、◆課題)

- 新型コロナウイルスの影響により、実施時期の変更や、広報も困難な状況にあったが、大学の先生方や、先輩ボランティアの協力により、特に熊本大学、日本文理大学、真和高等学校から多くの参加が集まり、58名が参加者し、54名が法人ボランティア登録を行うことができた。また、9月に行われる「自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成講座②」へも継続して20名以上の参加希望者を獲得することができた。
- 参加者にボランティア活動を身近に感じてもらうことやボランティアの育成を目的として、事前の準備を運営ボランティアとともに行い、当日の運営も任せる形で事業を展開した。アンケートからも、「みんな明るく元気で笑顔もあり、一生懸命対応し盛り上げてくれた。ボランティアの在り方としてとても参考になった。」「頼りになるがしつこくない。距離の取り方が絶妙。」「わたしたちのことを常に考えて行動してくれたのでありがたかった。」「今後阿蘇ボラのような体制を整えたい。」等の意見があり、参加者は終始和やかな雰囲気の中で臨むことができた。2日間の中で実際に運営ボラが一段階成長した姿を目の当たりにすることで、ボランティア活動への意欲を高めることができた。
- ◆ 運営ボランティア主体にすることで、準備に時間がかかり、運営ボランティアや担当職員への負担が大きくなった。今回のノウハウを基にして、ボラや職員への負担も軽減していけるとよい。
- ◆ アンケート調査より、ほぼすべての項目において平均3.7~3.9という、運営面やカリキュラム内容について高い評価、満足度を得ることができた反面、「今後、当交流の家の教育事業で法人ボランティアとして活動したいですか。」という項目については、平均3.1という結果だった。「もう少しボランティアのことに学ばないとまだ自信がない。」「全体を誘導する、まとめるといった力が不足している。」「コミュニケーション力などの自信を失った。」等の意見もあった。実際の教育事業においても、登録すること、ボランティアに参加することの間には大きな壁があると感じられるため、実際のボランティア活動を想定した子供とのふれあい方についての演習等の時間を設定することで、より充実した研修になるのではないかと考える。